

市町村との意見交換会について

日時：平成26年7月24日（木）

午後3時30分～午後5時00分

場所：リーガロイヤルNCB2階松の間

開会 午後3時30分

○事務局 大変遅れまして申しわけありません。ただ今から関西広域連合と市町村との意見交換会を始めさせていただきたいと存じます。私は、本日の進行役を務めます関西広域連合本部事務局の中塚と申します。

それでは開会に当たりまして、井戸連合長よりご挨拶を申し上げます。連合長よろしく申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 今日は大変お忙しい中、関西を代表していただいております近畿市長会と近畿府県町村会長のメンバーの皆様方とこのような意見交換会を持つことができまして、関西広域連合としましては大変喜んでいる次第でございます。今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。

皆様との意見交換会は、平成24年の3月に、特に喫緊の課題でありました国の出先機関対策をテーマにスタートしたわけですが、基本的には少なくとも年2回、このような形で意見交換をさせていただくということで昨年来開催をさせていただいております。今年度に入りましては第1回目の会議ということになります。今回で勘定しますと5回目ということになります。

さて、関西広域連合でございますが、3年8カ月を迎えました。この間におきましては、特に防災面では東日本大震災の被災地への支援、カウンターパート方式により、私ども関西広域連合のもとに府県、そして市町村にご協力いただきましたので、随分存在感を示し得たのではないかと考えております。また、紀伊半島を中心とする大水害に対しましても機動力を発揮できたと考えております。あわせまして、ドクターヘリにつきましては、京滋ヘリが、平成27年度の早い時期での運航開始を目指してお

りますので、そのような意味では関西全体を覆うドクターヘリ網が関西広域連合のもとで運航されていくこととなります。そのような意味で幾つかの課題を乗り越えて対応させていただいてきたわけであります。今年から第2ステージと我々は言っているのですが、新しい広域計画に基づきます関西広域連合の運営が始まりました。最初の広域計画では、いろいろなプランの作成を急いだわけでございます。そのいろいろなプランの作成は第1回目で実行いたしました。それに基づいてオペレーションとか機能をどういうふうに連携しながら発揮していくか、具体のシナリオづくりが必要になります。これらを第2ステージではしっかりと進めていきたいと考えているものでございます。後ほどそれぞれの分野の推進状況につきまして、各担当委員からご説明をさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

また、国からの権限移譲につきましては、国の出先機関の丸ごと移管に関連しまして法律の閣議決定までこぎつけたのですが、ご承知のように解散、政権交代となり、国の出先機関の丸ごと移管は、まだ大きな課題となっております。

一方で、ご案内のように、政府の地方分権改革推進本部からの手上げ方式でありますが、府県や市町に対して国の事務を移譲する項目について提案をしてほしいという要請があり、それに基づいて分権事務を進めていこうという運びになっております。その対象に関西広域連合も入っており、関西広域連合としてふさわしい事務につきまして提案をしているものでございます。例えば国土形成計画におきますブロック計画の策定権限を関西広域連合に移譲していただいたほうが総合的な計画によりなるのではないかと提案などさせていただいたものでございます。

ただ、まだまだ残念なことに市町の皆さんからも、あるいは府県民の皆さんからも、関西広域連合というのは何をやっているんだろうかというような疑問を呈されていることが多くございます。そのような意味では、関西広域連合の活動の見える化をより一層進めていく必要があるわけであり、その推進に我々自身も努力していきたいと考えております。この機会もその一つに活用させていただければ幸いかと思ってお

ります。本日は、皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、今述べましたような諸課題に対しまして、関西広域連合といたしまして、課題解決に少しでも進むことができるように努力をしていきたいと考えておりますので、どうぞ積極的なご提言や、あるいはご意見を頂戴したいと存じます。

よろしく冒頭お願い申し上げまして、関西広域連合を代表してのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　それでは早速意見交換に入りたいと思いますけれども、その前に関西広域連合の取組について、お配りしております資料に基づいて、連合長及び各担当委員、副委員からご説明申し上げたいと思います。時間が限られておりますので、早速説明に入りたいと思います。

○各分野担当委員による説明（資料説明）

- ・井戸連合長：広域防災、「近畿圏広域地方計画」への対応について、地方分権改革に関する提案募集への対応について、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会の設置について、今夏の節電対策について、関西ワールドマスターズゲームズ2021等の開催について
- ・山下副委員：広域観光・文化振興
- ・平井委員：広域観光・文化振興（山陰海岸ジオパーク推進）
- ・松井委員：広域産業振興
- ・仁坂副連合長：広域産業振興（農林水産）、広域職員研修
- ・飯泉委員：広域医療
- ・廣脇局長：広域環境保全

○事務局　それでは、これより意見交換に入りたいと存じます。

ただいまの説明、もしくは配付資料に対する質問も含めまして、関西広域連合の活動全般に対するご意見いただければと存じます。特に私から指名はいたしませんので、適時ご発言いただければと存じます。よろしくお願いいたします。

○南丹市長（佐々木稔納） 近畿市長会副会長で、京都府南丹市長の佐々木でございます。

この資料の47ページに上げていただいております、琵琶湖・淀川流域の研究会の設置、私どもも大変この研究会設置いただいたことに感謝いたしております。実は私ども淀川上流、桂川の上流域でございます日吉ダムの所在地でございます。こういった中で今回の被害、60年ぶりの被害となりました。また、端的に申しますと、この日吉ダム、流木が1万3,500立米たまりました。そして、このほかに土砂が相当たまりました。住民不安というのは大変この上流域で出てきております。やはり私どもは今、避難勧告、避難指示等についての首長の責任というのは大変問われている時期でございます。こういった中で、ぜひともこの研究会におきまして、有識者の皆さん、また広域連合の委員の皆さん方とのお話し合いといいますか、意見交換の場を設けていただきたい。とりわけ、やはり中間報告が出ますとプラスαというのはなかなか難しいと思いますので、それまでにこういった機会を開催いただけたらと思っておりますので、ご理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

以上です。

○忠岡町長（和田吉衛） 本日は、私は大阪府の町村長会の副会長として出席させていただいておりますが、関西の発展には関空の活性化が不可欠である、こういうように思うことで、関空の地元であります私どもとして一言お願いを申し上げたいと、こういうことで時間をいただきました。

日々、関西広域連合におかれましては、先ほど連合長さんからご説明がありましたが、府県域を越え、幅広い広域課題に取り組まれ、着実に実績を積み重ねておられることに敬意と感謝を申し上げたいと思っております。

関西広域連合をはじめとする府県、市町村におかれましては、国や経済界、新関空会社との連携協力をし、関空の国際拠点空港としての機能強化に向けて着実に取り組まれていることと思います。とともに、私どもの地域、泉州9市4町といたしまして

も、関空の活性化に向けて微力ながら関空イン・関空アウトのインバウンドによる観光振興も含めて泉州地域と新関空会社が一体となって共存共栄に取り組んでいるところでもあります。そこで、今後も関空はアジアのゲートウェイとして、関西圏の人や物の流れの拠点となる上でも関空と大阪都心部を結ぶ関空リニアの整備が必要と考えております。その実現を地元泉州として熱望しているところでもあります。もちろん中央リニアの東京～大阪間の同時開業に向けた取組が最優先であることは十分に承知しておりますが、関空リニアについても地元自治体として切に願っているということを念頭に置いていただき、今後取組を進めていただければと願っているところでございます。

関西広域連合には泉州地域の一員である堺市が参加されておりますので、関西広域連合のメンバーとしての立場も踏まえて、この点について、竹山委員さんはどのように思っているのか、続いて発言していただけたらありがたいです。

○芦屋市長（山中 健） 近畿市長会の相談役で、兵庫県市長会の会長しております芦屋市長でございます。

ページでいきますと、49ページになるのでしょうか、節電の対策についてであります。節電をしよう、節電をしようという声かけだけではなくて、ぜひ関西広域連合こぞって、全県庁、市役所、役場、お盆の3日間は少なくとも閉庁というような大胆なお盆対策、お盆のときにそういうことができないだろうかと、ご提案を申し上げたいと思います。民間は休んでおりますので、お客さんの来ない庁舎に何もクーラーをガンガンかけて、職員が全員来ている必要は全くないと思いますので、我々は一昨年からはじめておりまして、混乱も苦情もございません。窓口、一昨年は第1回目で、もう全く完全にシャットアウトいたしましたけれども、やはり窓口は開けようということで、昨年は窓口部門だけは一部開けました。本当に混乱も苦情もなく、節電の効果、役所が、自治体が節電に向けて真っ先に取り組んでいるということ、まず示そうということで取り組んでおりますので、もうちょっと大きい形でできればなと思って

おります。公務員はいつも休んでいいねと、こう思われがちですが、逆に一番、役所を開けてほしいとき、例えば12月の29日とか、3月の最後の年度末の土曜日、年度初めの土曜日、これを開けたらいいのではないかと。我々は率先して、今年3年目に入っておりますが、大変効果がございますので、ぜひ、こぞって関西広域で取り組んでいただければと思いますので、ご提案申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） それでは3人からご意見いただきましたので、とりあえず、ここで意見交換をさせていただきたいと思います。

私からは、佐々木市長と山中市長にお答えをさせていただきたいと思います。一番難しいリニアの問題は竹山市長がお答えになるということでございます。

佐々木市長さんからの申し出は、ごもっともでございます。我々の研究会の発足も、先ほど触れましたように、昨年台風18号による被害の状況を見ましたときに、上流であります琵琶湖沿岸地域の被災、そして天ヶ瀬ダム、日吉ダムも含めまして、淀川水系のダムがかなり活躍して、ぎりぎりまでのところで持ちこたえたという状況でありますだけに、上下水の調整のシステム、今はあるわけではありますが、実際、今のままでいいのかどうかを含めて、経過も踏まえながら、課題を抽出して、その課題に対してどのような対応があり得るのかを、我々だけでできることではありませんけれども、整理した上で提案をしていければなという趣旨で、この研究会スタートさせたものでございますので、我々としては、もとより地元が一番市民に近い市長さん方のご意見を伺う必要があると思っております。そのような意味で、まだ研究会を発足しただけで、第1回会合は8月になりますが、その際にも、今日のこのような意見交換の場で、地元を代表して佐々木市長さんから、こういう申し出があった旨お諮りをさせていただき、きちんとしたヒアリングなどをさせていただくような機会をつくれるようにしていきたい。このように考えておりますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。ただ、ある程度議論が進んでまいりませんと、単純に意見を聞いただけ、なんてことになってはいけないので、その辺のタイミングはまたご相

談をさせていただきたいと思います。

それから、山中市長、芦屋市役所は随分頑張っておられるのですが、もう今年度はちょっと難しいと思っております。具体的にやれるかやれないか、来年度の課題として受けとめさせていただきたいと思いますが、先ほど説明いたしましたように、関西全体としてもポイント制度ですとか、あるいはクールスポットへのお出かけ誘引ですとか、いろいろな新しい試みをやっております。それから府県ごとにはそれぞれ工夫をされておりました、私どものところだとサマータイム制度を実施しております、サマータイムといっても、8時に出てきて5時に終わろうというわけでありましたが、何が一番効果があるかといいますと、残業が減る。残業が減るということは電気を早く消すということにつながりますので、つまり5時以降冷房切ってしまうわけですので、暑くておれないという、こういうサマータイム制度も実施したり、あるいは11%が一般であります、率先行動計画の実施という形で、県としては15%節電に取り組ませていただいております。そのような相対的な力をぜひ発揮していきたいなと思っております。あわせまして、天気予報ならぬ電気予報が毎日のように出されておりますが、その電気予報で3%を切るような緊急事態が予想されたときには、緊急対応が必要になります。そのような場合には呼びかけを、マスコミの協力も得ながらやらせていただくとともに、県庁などはパソコン、電気、エレベーターなど、電気を使うことは全部基本的にシャットアウトするというようなことの行動計画も定めているものでございます。芦屋市さんの試みにつきましては十分勉強させていただいて、来年度の課題とさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○委員（竹山修身） 関空の問題についてお答えします。

基礎自治体と広域自治体をつなぐという立場で我々は広域連合に入っています。そして、やはり関空の問題は泉州だけの問題じゃなくて、関西の問題だと認識しております。今日の新聞でも、訪日外国人が今年上半期、過去最多になったということで、

626万人でございますので、1,200万人を超えるのは確実であると言われて
います。その中で、関空もLCC人気で、非常に多くの訪日外国人の方が来られていま
す。我々としては、やはり地元として乗り継ぎ利便性をいかに向上させていくか、ス
ーパーハブとしての関空をどのようにして地域で盛り立てていくかということを考え
ていく。そうなるなりニアを何とか、新大阪まで来るのであれば関空までと思ってい
るところでございます。ぜひ、そのあたりを広域連合として、国にもしっかりと要望
していくということを地元としてやっていきたいと、それは和田町長さんと同じ思い
です。そして通過都市にならずに関空周辺にインバウンドの周遊コースを定めて、い
かに回ってもらうかということが、我々泉州の市の役割だと思っています。そういう
意味で、ニアは大きな役割を果たすと思いますので、ぜひこれからも広域連合のメ
ンバーとして、国に対して東京・大阪間同時開業プラス関空を視野に入れたものをし
っかりと要求していかないといけないと思っています。

○副広域連合長（仁坂吉伸） 私も、広域インフラ担当ですから、ただ、広域イン
フラでやってる話と違うこともあわせて申し上げます。

関空ニアは、私たちほとんど全員が必要なものだと思っています。これは歴史
的にいうと、橋下さんが一番初めに言い出した話ではないかと思っています。例えば中央
ニアと関空ニアがありますが、京都駅ルートで中央ニアを誘致しようと言われて
いる方々は、国際拠点空港である関空まで延伸し関空、新大阪、京都とアクセス改善
を図ることを言っておられます。一方、実は広域連合と違いますが、私が合従連衡し
まして、関係する府県で「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」を設立し、
四国新幹線を関空まで持っていこうという話もしております。これは四国新幹線です
から、ニア仕様ではないですが、何がいいかというと、四国新幹線は、四国を通っ
て淡路島へ行き、ルートは検討中ですが、とにかく大阪まで行くという基本計画が、
政府で閣議決定されています。ですから橋下構想とは違って、もう政府も半歩ぐら
いは踏み出しているわけです。橋下さんや松井さんにお話をしまして、「ニアでも新

幹線でもそんなに時間差はないから、これでやると実現まで早いよ」という話を私はしまして、それで協議会にも入っていただいて、四国新幹線を淡路島から紀淡海峡を通過して、和歌山の端、関空、新大阪まで通す話をすれば、いずれ整備新幹線の順番が四国に回ってくるはずですから、かなり実現まで近くなってくるのではないかと思います。ただし、この整備新幹線も紀淡海峡も、実は第四次全国総合開発計画時の第2国土軸という話でした。だけど、この話は元気がなくなって、やや死にかけていた話ですが、関空リニアは、まだ生まれてないような話なので、そんなに簡単ではありません。しかし、みんなで力をあわせてそれを進めていけば、非常にいいのではないかと思います。

それから、連合長に一言感謝を申し上げておきますと、実は、淡路島まで来た四国新幹線をどのルートで大阪まで持っていくかという話が実はずっと昔から決まっていませんでした。明石海峡大橋を通過していったらいいのではという話と、紀淡海峡に橋をつくるという話があったのですが、連合長は英断をしていただいて、「紀淡海峡で結構である」と言ってくださって、我々の仲間内で話がまとまったのです。問題は政府がこれにお金を出すかどうかということで、まだそこまでは簡単にはいっておりません。だけど粘り強くやるつもりですし、さっき言いましたように、四国新幹線案にしろ、中央リニア案にしろ、関空までということをお我々全員が念頭に置いて行動していると、ご理解いただきたいと思います。

○美波町長（影治信良） 徳島県の美波町長の影治といいます。よろしくお願いたします。

資料では3ページになるかと思いますが、四国八十八箇所霊場の遍路道の世界遺産登録についてご意見を申し上げたいと思います。今年は、空海が四国霊場を開創したと伝えられる弘仁6年、815年から数えまして1200年の節目を迎えるということで、開創1200年ということで、いろいろなイベントも行われており、四国霊場をめぐるお遍路さんが例年よりも増えている状況でございます。私たちの町美波町に

も、四国霊場 2 3 番札所の薬王寺がございまして、お接待の心で、参拝に訪れましたお遍路さんをもてなしているところでもあります。2004年7月7日に紀伊山地の霊場と参詣道ということで、既に世界文化遺産に登録されておりますけれども、10年経っているというようなことございまして、前段の会議でも堺市長さんから、百舌、古市の古墳群というようなお話もございましたけれども、こういった形で関西の歴史、それから文化にも関係する四国八十八箇所霊場と遍路道を世界遺産に登録しようということで、美波町など四国の八十八箇所霊場がある四国4県の市町村や県、それから経済団体が一体となりまして、「世界遺産登録推進協議会」を設立いたしまして、平成28年度の世界遺産暫定リストへの記載を目指して取り組んでいるところでございます。関西広域連合では、関西における広域的な観光ルートの提案や関西の世界遺産や世界遺産登録を目指している文化資源等国内外への情報発信に取り組まれていると先ほど伺ったところでございます。例えば京都や大阪、神戸に訪れた観光客の方が四国八十八箇所霊場など関西各地の文化、また観光資源を生かし、四国や関西の各地にも観光に訪れていただけるよう、関西広域連合が中心となって広域的な周遊観光を積極的に進めていただきたいと思いますというわけでございます。また、関西で、世界遺産登録を目指すというのはほかにもあるかと思えます。そういったことで、世界遺産のPRの取組に当たりましては、ぜひ四国八十八箇所霊場と遍路道についても関西広域連合が積極的に世界遺産登録に向けた支援を行っていただければありがたいかなと思えますので、よろしくお願いを申し上げたいと思えます。

○甲賀市長（中嶋武嗣） 近畿市長会の滋賀県甲賀市長の中嶋でございます。先ほど南丹市長の佐々木さんのご発言がございましたように、琵琶湖・淀川水系に係る件に関してお願い等申し上げたいと思えます。

実は、関西広域連合が発足しました当時平成23年2月に、近畿市長会の役員会で、その当時の近畿市長会の会長を兵庫県小野市の蓬萊さんがしてくださったときに、関西広域連合とそれぞれの基礎的自治体である近畿市長会とこのような意見交換会を持

っていただきたいということを度々申し上げておりました。今日、このような実現をしてくださったことは大変ありがたいという思いをいたしております。

今般、関西広域連合におきましても、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会を発足していただきましたことは大変意義深くありがたいものがあると考えております。しかるに、私ども滋賀県のシンボルであります琵琶湖には118本の1級河川が流入しておりまして、ほかは直接瀬田川、淀川に1本流れておりまして、岐阜県に1本、そして福井県に5本流れております。ゆえに今回、近畿1,400万人の水がめとなるべき琵琶湖の関係でございますが、特に県内の河川のほとんどが琵琶湖に流入しているといっても、過言ではないところでございます。鈴鹿山系から流れる野洲川の上流にあるのが手前ども甲賀市でございます。しかるに、先の台風18号におきましては、野洲川支流にかかります柚川という川がございまして、信楽高原鉄道の橋脚が流出したということで皆さんご存じかと思えます。昭和8年に旧国鉄から払い下げを受けて、民間とともに取り組んできた、持ちこたえてきた橋脚でございますので、老朽化ということもありますが、それ以上に河川の状況が大きく変わっているのではないかと思います。まさに上流部、源流部におきましては、山林は涵養資源としての機能が低下いたしておりますし、山の管理が十分にできておりません。従いまして、それに伴い、土砂の流出や河床の盛り上がり、この時期にありまして、水を湛えた水面の風景は見るできないわけございまして、まさに、河原砂漠のような状態で、竹林やら雑木が出ております。先ほどもお話がございましたように、獣害、イノシシ、シカ等につきましても、河川の中に住んでいる状況が続いているわけでございます。格好のすみかとなっている状況から、治水対策につきましては下流部だけの問題ではなく、上流部にももっと目を向けていただければありがたいという思いをいたしておりますし、その118本の河川から流れました流木が琵琶湖に漂着し、それを沿岸の市町村が処理するので大きな負担になっていることも事実でございます。しかるに、最適な場所に最適なダムをつくるということにつきましては、もち

ろん反論はございませんが、やはりダムありきではなしに、下流部の都市部の繁栄や安全が確保されなければならないものでありまして、流域全体のあるべき治水というものをしっかりと総合的な観点から捉えていただくことを念願するものでございます。私ども甲賀市の古い小学校の学籍簿を見せていただいておりますと、お父さんの名前が書いてあります。その次にお父さんの職業が書いてあり、そこに筏師というのが書いてありました。ゆえに、これだけの流域の上流部から木材を下流に流していたというような経緯のある中で、やはりこの点をしっかりと捉えていただきたいという思いと、瀬田川の洗堰がございますが、230年前に藤本太郎右衛門さんという方が親子4代46年間にわたって、私財をなげうって瀬田川の浚渫をしていただいたという事実もございます。ゆえに県、そしてさらには広域連合におきましても、これらの事実をしっかりと捉えて取り組んでいただきたいという思いをいたしております。奈良時代に遡りますと、やなで仕掛けのけんかをしておりました。今は水争い、山の際面争い、さらにはまた漁業権の争いもあちこちであるそうでございますので、どうか琵琶湖を原点とする滋賀県上流部にも関西広域連合として目を向けていただければ大変ありがたいという思いをいたしております。水を巡っては、先人たちの大きな努力の結果が今日あるわけでございますので、どうか、この努力があったということを真摯に思い起こしながら、将来のあるべき姿を映し出す議論として、関西広域連合でしっかりと取り組んでいただくようお願いを申し上げ、私は感謝の気持ちを込めて意見発表とさせていただきます。

○多可町長（戸田善規） 兵庫県町村会会長の多可町長です。箇条書で何点かお願いをいたします。

まず、今日、参考資料で先ほどご説明いただきましたので、納得できたのですが、広域防災の中でインフルエンザの問題、これが欠けておるなと思って、事前の資料を見ておりました。この部分はわかりました。それでA型のいわゆるH1、N1、この部分のパンデミックに備えるということは大事だと思います。という中で、タミフ

ルでありますとかリレンザ、これらの共同備蓄ということができないかどうか、これ1点です。関西広域連合ということの中での特色というのはここに出るのかなと気がいたします。

それと電気自動車の普及のお話がありました。時代がそういう方向へ大きく流れています。これは前向きに受けたいなと思っています。そういう中で、関西全域の自治体、これに前向きに向かうということの中で、そのスタンドの設置というのを一緒にやれたらなと思います。それと国交省の関係になりますのでどう思われるかわかりませんが、道の駅の連絡協議会というのがございます。そこの連携の中で、車がたくさん寄ってくる場所ですので、自治体から声かけますと必ずできますので、そういった前向きな対応を一遍ご指導いただきたいと思います。

それとニホンジカの対策、これでありませけれども、今、猟友会が高齢化している。人数が減ってきているという中で、シカやイノシシの捕獲がなかなか難しくなっています。人材育成プログラム、ご説明ございましたけれども、これに期待をさせていたきたいと思っています。

それと関西文化の日のお話がありました。これは非常にいいなと思って聞かせていただきました。11月の15・16日を無料にするということですがけれども、対外国人だけじゃなく、日本人も含めて、これをお願いできたら、非常にありがたい。多分そういうことだと思いますけれども、お願いをしておきたい。

それと危険ドラッグのお話がありました。これは今まで脱法ドラッグ、それから違法ドラッグとか、いろいろな言い方がされましたが、なかなか知識が自治体にありません。これに対応いただくことは非常にありがたいのですが、これ急いでいただきたいなという気がいたします。いろいろな被害が出ないうちに早く対応いただきたいなと思っています。

それと最後ですけれども、芦屋市長さんの提言、私も大賛成です。ぜひ、これ一緒にやれたらなと思います。横連携がなかったら、あそこの役場は開いてる、市役所は

開いてる、だけど、こっちは閉まってるという、これ一番外見によくありませんから、やはり関西に行ったら、皆お盆は休んでる、そのかわり忙しい年末、それから年度末、これは開いているという、何かこういうふうなモデルを関西らしくつくっていただけたらありがたい。大賛成ですのでお願いをしたいと思います。ただ、先に休むというのはよくありません。逆に休んでいるところを先に仕事をするところへ入ることからいうと、今年からかかっていたら、逆に良いのかなと、そんな気がいたしますので、前向きによろしくご指導いただきたい。そんなことをお願いいたします。

○相生市長（谷口芳紀） 相生市長の谷口です。芦屋の市長さんのご提案、私非常にいいなと思って、私どもも数年前からやろうとしたのですが、私ども出先機関がないものから、全庁を閉鎖するというのは、これ地方自治法違反と言われまして、市役所全体を閉めてしまうわけにはいかないのです。それでごく一部だけ開けまして、数年前からやらせていただいていますので、今年もひとつ、多可町さんともやらせていただきたいと思います。

それから、冒頭井戸連合長からもお話がございましたように、この関西広域連合の情報提供というのですか、見える化というのは、実際問題、なかなかこの広域連合が何をされているのかというのは非常に住民にわかりづらい。そこはホームページとかSNSとかいろいろ情報発信はされておりますけど、いま一度強力な情報発信をお願いできればと、このように思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。お約束の時間が迫っております。もし、よろしければ、あとお一方ぐらいご意見いただいと申すのですが、いかがでしょうか。

○副委員（藤田裕之） 直接自治体として広域連合に参加しています京都市でございます。私自身は副市長ですけれども、先ほどの祝日の開業とか閉庁、そのあたりのことで、少しだけご意見を言わせていただきたいと思います。やはり間接行政をやっている都道府県と、直接行政をやっている市町村で随分スタンスなり感覚が違うのではないかなと個人的には思っています。指定都市の場合は区役所で窓口業務を持ってお

り、私も実は今の副市長の前の仕事で区長の仕事をしておりまして、京都市の場合は、3月、4月の土曜日に開庁しております。区役所業務の窓口だけ開庁しているというようなことをやっております、うちも大変好評です。そういう意味では、窓口業務、市民に密着する業務のあり方、それから間接行政として閉められる部分を閉めるとか、そのあたりについて、せっかくの機会ですので、こういう広域連合の立場と市町村の生の住民に直接接する立場での意見交換ができていたというのはすばらしいことだなと思ひまして、指定都市としても、そのあたり区役所業務を抱えている指定都市として、またいろいろ意見交換させていただきたいと思ひました。

以上です。

○甲賀市長（中嶋武嗣） 甲賀市長でございます。連合長さんに反する気持ちで申し上げるわけではないのですが、今回お取り組みになるワールドマスターズの件でございますけれど、私も当時、滋賀県で2002年～3年ごろに県議会議員をいたしておりました。県挙げて誘致活動をいたしておりましたが、実態の見えないような状況の中で進んでおりまして、県議会議員の代表、あるいは県の代表の方にストックホルムやマドリッドまで行っていただきましたが、実質上誘致するについては非常に多大の経費がかかり、効果が少ないということから断念した経緯がございました。施設、そしてまた金員等につきましても、オリンピックを誘致するような事業の内容でございましたし、内容を聞いてみましたら、好き寄りの方ばかりが寄ってくるというような内容でございましたので、冠事業としては非常にいいかと思ひますが、どうか十分に慎重にご審議された中で誘致、そして開催をしていただくよう、断念した経緯の中からではございますが、このことだけお伝えをさせていただきたいと思ひます。

○委員（飯泉嘉門） 先ほど脱法ドラッグのお話、今は危険ドラッグと呼んでおりますけど、なるべく情報提供を早くにとのお話がありました。今、全国で条例で危険ドラッグを規制をしておるのが6府県あります。このうちの4つが、実はこの関西広域連合のエリアの中にあります。大阪、和歌山、徳島、そして鳥取と。こうした情

報につきましても、お互いその共有を関西広域連合、さらには連携団体である福井、あるいは三重、そして奈良とも連携をさせていただき、また、先ほどの合同研修会、これも、今年度は近畿ブロック全体で行っていく予定です。またタイムリーに情報提供させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員（平井伸治） 先ほど、戸田町長からお話がありました電気自動車ですが、例えば但馬ルートで日本海へ入ってくるようなルートの設定を兵庫県や京都府等と連携してやっております。先般はJKBが鳥取にやって来ました。JKBとは、女子カート部という（タレント、モデルを中心とする女性だけのレーシングチームで、レーシングスーツを着て）物すごい格好をしていますが、かわいらしいお姉さんが3人で鳥取に入ってきました。これがやはり電気の充電スタンドをたどりながらやって来る旅でしたが、こういうものをもっとルート化して、先鋭的に圏域として売り出していくということも可能と思ひます。戸田町長にお世話いただき、多可町からSLを譲っていただいた若桜町でも、そうした充電スタンドをつくろうという動きも出てきており、今、関西からその周辺地域へ回るルートが確立されつつありますので、それを念頭に置いて整備してはどうかと思ひます。

○副委員（山下晃正） まず、「関西文化の日」は外国人だけではなく、当然日本人も無料でございますので、ご安心いただけたらいいと思ひます。また世界遺産の関係でございますが、冒頭説明させていただいたように、今も第一番札所はPRさせていただきます。この前の会議でも竹山市長さんから、古墳群の世界遺産を目指しているというお話もございましたし、彦根城のお話も聞いておりますし、我々も幾つか案件を持っております。そうしたことを含めて、世界遺産になるためには普遍的価値を皆が理解してないといけないということでございますので、その普遍的な価値を理解していただくための活動を、ご一緒にさせていただきたいと思っております。

○広域環境保全局長（廣脇正機） 先ほどのお話の中で、電気自動車の関係でございます。スタンドの設置を推進するよふにということでございますけれども、スタン

ドの設置は、現在普及時期ということで、様々な団体、あるいは事業者、会社がやっておりますし、公的団体でもやっておりますけれども、広域連合では、それを全体的に支援するというので、その全体の配置、充電マップの情報発信ですとか、あるいは通信認証システムの共通化というようなこともやってきています。先ほどご提案のありましたような道の駅などにつきましても今後の支援の検討課題とさせていただきたいと思います。

それからニホンジカの件でございますけれども、先ほどご指摘いただきましたように、大変県境付近での被害というのはあるそうです。特に県境付近は人がなかなか入っていないということで、その捕獲のシステムもできていないということがございますので、今年から新たな取組として、県境における取組のあり方を検討してまいりたいと考えています。

○事務局　それでは本日の総括のご挨拶を兼ねて、連合長をお願いします。

○広域連合長（井戸敏三）　残っております答弁もまずさせていただきたいと思えます。

中嶋さんから2点ご指摘いただきました。特に淀川水系の研究会の運営につきましては、もともと淀川水系全体、琵琶湖も含めまして非常に経過があって、そして現在に至っているわけでありますので、まず、その経過をきちっと踏まえる必要があるというのが出発でございます。そして、現状が適切な状況であるのかどうかを評価していき、そしてそれに対して対策をどんな見地で行っていったらいいのか、こんな議論展開をしたいと考えておりますので、そのような意味では、いろいろな意味でのご意見やご指導を賜りながら進めていくことが基本になろうかと思っております。ただ、非常に経過があるということは、逆に非常に多くのいわば教訓や材料があるということにもつながりますので、3回ぐらいで、中間報告がうまくまとまるのかと、実を言いますと、私も心配しているのでありますが、一方で、それだけの多くの実績が積み重ねられているんだということも前提にしながら研究会を開催していきたい。そしてご

意見も伺っていききたい、ご指導もいただきたい、このように思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

あとワールドマスターズゲームズですが、当時と相当状況が違ひていまして、今回のワールドマスターズゲームズは、実を言ひますと、向こうの事務局から、ぜひ関西で開いてくれという要請を受けて我々が立ち上がったという経過がございます。もし誘致合戦なりをしているんだとすると、ご心配のような点も多く出てきたんじゃないかと思ひますが、私たちが決定をする前に、去年ですが、平井知事と京都市長の門川市長に代表していただきまして、現地調査をつぶさにした上で、それから事務局とも開催に伴いますいろいろな負担関係などについても相当程度交渉させていただいた上で踏み切らせていただきました。それとあわせまして、1府県で取り組むのではなくて、関西全体で取り組もうといたしてありますので、体制もある意味でとりやすい。調整は難しいのかもしれませんが、その辺も踏まえて進めていきたくて考えております。今日も準備委員会を開催させていただいて、今年中には組織委員会を立ち上げたい。できれば開催地から手を上げていただくような、そういう枠組みがうまく示されるような努力をしていきたくてというようなことを申し上げたところでございます。ぜひご協力を、ご心配な点は常にご指導いただきながら、ご協力をいただけましたらと思ひます。

それから、戸田町長さんからのインフルエンザのタミフルなどの共同備蓄の提案がございましたが、今のところ、このタミフルとカリレンザの備蓄について大変困っているわけではないのです。それで、我々としては備蓄場所というよりは融通のしかけをきちんと用意して対応していくということが重要なのではないかと、そういう意味での実施要綱を定めます。実施要綱の中にその部分も入れていきたくて、こう考えております。

それから電気自動車は、兵庫県でも既に充電スタンドの整備計画というのを国の計画に準拠して整備させていただいております。ご提案のようなルートごとのチェック

が十分できているかどうか自信がありませんけれども、これもチェックさせていただいて、メインのルートごとに大丈夫かどうかということは非常に重要なことではないかと思えます。あわせて、水素スタンドの整備計画も兵庫県としては、この7月に策定をいたしまして公表させていただき、尼崎に第1号の水素スタンドが整備をされて営業活動も始めております。岩谷産業が研究所の一角に整備をしたということですので、一般的な整備スタンドではないかもしれませんが、機能としては一般的な整備スタンドとしてスタートしたということでございます。

シカ対策は非常に重要でございまして、奥山に間伐などした後、広葉樹を植林いたしましてもシカが食べてしまいます。従いまして、シカ害を防ぎながら、どう植林をしていくかというのも大きな課題になっておりまして、筒で包んでいるというのもありますが、これは結構お金がかかります。従いまして、もう少し面的な対応ができないかどうか、私ども兵庫県に森林動物研究センターというのがありますが、ここで研究をしてもらっております。幾つかの提案がありますが、要は物理的に守らなければならないということでもあります。もう一つは、コウゾ・ミツマタみたいなシカが食べない、シカが嫌う植林をしていくかということも考えられるかもしれません。この辺はさらなる検討を進めていきたいと考えています。

それから危険ドラッグはもう絶対に流通しないような対応していきたいと考えております。私どもは条例化していませんが、今日も強く平井知事、それから仁坂知事から、ドラッグの構造式でもって指定をして対策を行うというようなことになると、いつもイタチごっこの後追いになってしまうので、売らさない、そういう効果が出てくるような薬は販売禁止、あるいは、いわば許可制度の枠の中に入れるとか、そういうようなやり方、社会的な規制を中心に考えていくべきじゃないかという提案をいただいております。そのような社会的規制のあり方についても少し検討を進めていきたい、このように考えているものでございます。きっと国は、法律で社会的規制を前面に立てようとする、これ国会論議で本当に通るかどうかというところが自信が持てない

ので、今のような化学式規制をやっているのだと思いますので、その辺、現場に近い我々の知恵の出どころがあるのかもしれないと考えているものでございます。

それから谷口会長から、広域連合の見える化について、もっと努力しろと言われてました。具体的に府県民から見て、メリットとして感じられるような事業を広域連合が具体的に進めているということが肌感覚でわかっていただくのが一番であります。例えばドクターヘリなどは大変わかりやすい事業でありますし、あるいは防災につきましても、実践的な防災訓練や広域連合と府県と市町村との連携した全体としての図上訓練などを一緒にやらせていただくことも大変実践的に重要ですし、見える化にもつながっていくのではないかと考えております。ともあれ、できるだけ広域連合が目立つような活動を展開していくことが重要だと思っておりますので、よろしくご理解とご指導をいただければ幸いです。

最後にお礼を申し上げたいと思います。今日第5回目になりますが、このような忌憚のない意見交換をすることができました。私たち、冒頭ご挨拶いたしましたように、第2期の広域計画に基づく新しいステージでの広域行政の展開を図っていこうと考えているものでございますし、何も道州制に対抗しようとしているわけではありませんけれども、道州制が狙っているような広域的な取組は、ある意味で、私の評価としては、広域連合で取り組むことによって大体できる部分が随分あるのではないかと。そういうような一環として、実を言いますと、国の出先機関の丸ごと移管というようなことを要請してきたわけですが、この国との関係も含めまして、広域連合の今後のレベルアップ、機能アップにつきまして、皆様方からのご指摘もいただきながら努力をしてまいりますので、今後ともよろしくお願いを申し上げさせていただきたいと思っております。

特に人口減少社会に対する対応という形で、国も地方創生本部をつくって、かなり本腰を入れようとしているやに見えますので、そのような動きの中で、実際は、一番最末端の小規模集落ぐらいにまで目が届かないといけないわけでありまして、そこ

の住んでいる方々自身が自発的な活動を展開されていかないと地域振興できっこないわけではありますが、しかし、そういう枠組みを我々が用意をして、応援をしていくという体制をうまくつくるのが非常に重要になってまいりますので、そのような意味で、我々広域連合としても果たせる役割を十分に、十全に果たせるべく努力をしていきたい、このように決意をいたしております。今後とも市長会、町村会の皆様方、そして市町村の皆様方との連携のもとに広域行政の推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局　ありがとうございました。では、これを持ちまして本日の会議を終了させていただきます。長時間ご議論ありがとうございました。

閉会　午後5時00分